

4) カツオ曳網漁獲量(糸巻)

49年の総漁獲量は13トンで商業生産額は3567,965円である。盛漁期は5月である。昨年と比較すると盛期は昨年同期で漁獲量は昨年の72%、生産額で昨年の92%と減少した。糸巻の曳網のカツオ類はソーダカツオ類とスマ主体である。(表1-7)

表一七 カツオ曳網漁獲量 糸巻

年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
48	漁獲量kg	2660	98	669	44812	118150	4908	1520	3716	-	892	3294	1293	182182
	金額円	103398	3756	26870	999201	2243893	158738	354221	75275	-	2210086041	9384	3873378	
49	漁獲量kg	728	2646	14744	1347	5,2304	48620	100	686	4195	5546	1322	-	132048
	金額円	33270	108379	631495	60160	1130359	1264768	6146	30238	79628	175600	56616	-	3567965

2 タカサゴ類

1) 精密測定結果

体長

沖繩県魚連市場に水

揚げされるタカサゴ類

について体長を測定し

た。4月のタカサゴの

全長範囲は14.1 -

22.8cmでモードは

1.9 - 2.0cmに見られ、

50年1月は18.3 -

24.6cmの範囲でモー

ドは1.9 - 2.0cmに見

られた。ニセタカサゴ

は4月には19.4 -

26.2cmの範囲でモー

ドは2.3 - 2.5cm、10

月には19.7 - 23.2

cmの範囲でモー

ドは2.1 - 2.2cmにみられ

た。クマササハナムロ

は、10月には20.7

- 23.1cmの範囲でモ

ードは2.1 - 2.2cm、

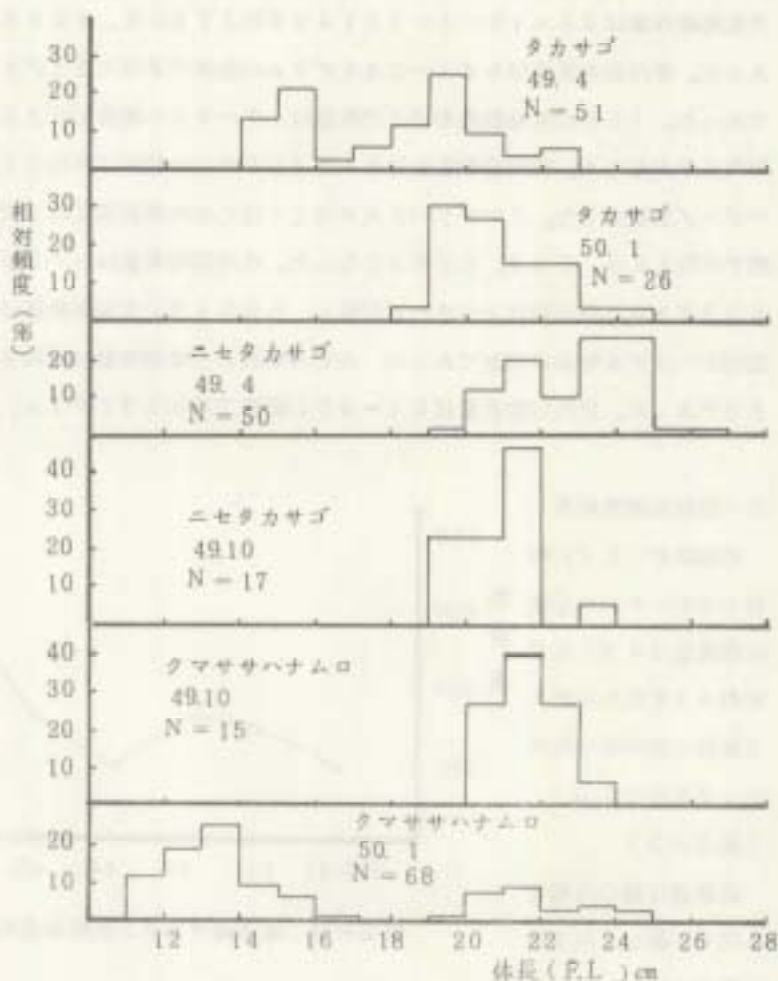


図2-1 タカサゴ類 体長組成

50年1月には11.1-25.0cmの範囲で双峰型をしておりモードは13-14cmにみられた。タマササハナムロは1月には産獲対象となる魚体が新規に加入したことがうかがわれる(図2-1)

生殖腺指数、胃内容物

49年4月のタカサゴの生殖腺の熟度は1-3で、指数は0.3-20.4の範囲で平均は517.16♀5.96で♀の平均は89.1となった。胃内容物重量は0.36-20.0グラムでコベボードがほとんど100%出現した。50年1月のタカサゴの生殖腺の熟度は3で生殖腺指数は1.1-11.9の範囲で平均20.♀9.4で♀の平均6.1となった。胃内容物重量は0.3-0.9グラムの範囲で平均0.55gr、魚類の稚仔魚、オキアキ目、端脚類、矢虫類、コベボードが出現したが優占種はコベボードであった。ニセタカサゴの4月の生殖腺熟度は2-4で生殖腺指数は2-4で生殖腺指数は 4.3×10^{-3} -16.14で平均571.08、♀38.88、♀の平均53.37であった。胃内容物重量は0.41-2.46グラムの範囲で平均1.21グラム、優占種はコベボードであった。10月の生殖腺熟度は2で指数は1.7-9.2の範囲で 2.2×10^{-3} 、♀6.1、♀の平均5.2となった。胃内容物重量は0-0.40グラムの範囲で平均0.23グラム、胃内容物はコベボードが優占した。タマササハナムロは10月には生殖腺熟度は2で指数は5.8-12.0の範囲で平均56.9、♀9.9、♀の平均9.3となった。胃内容物重量は0-0.60グラムの範囲で平均0.33グラム胃内容物はコベボードが優占。50年1月の生殖腺熟度は3と小型の個体は♀の区別がつかず未発達の状態であった。大型の個体の生殖腺指数は平均53.4、♀13.0、♀の平均8.2であった。胃内容物重量は0.1-9.0の範囲で平均0.32グラム、コベボードが優占した。

2) 漁獲量調査結果

水揚統計によると昭和49年のタカサゴ類の漁獲量は447屯で昭和41年度から史上2番目の豊漁年で昨年の1.25倍である。

(図2-2)

県漁産市場の月報およびセリ帳から同市場の月別水揚をみると表

5-1になる。同市場に水揚されるタカサゴ類は244屯で全沖縄の漁獲量の5.5%にあたり生産額は127,209,000円である。

昨年と比較すると水揚量は昨年と同じで生産額が若干ふえた。(表2-1)



図2-2 全沖縄タカサゴ類漁獲量年変化